

2027（令和9）年度

山口大学大学院人間社会科学研究科（修士課程）  
人文科学専攻

学 生 募 集 要 項

◇ ◇ ◇ 目 次 ◇ ◇ ◇

I 人間社会科学研究所人文科学専攻案内

1	山口大学大学院研究科アドミッション・ポリシー	1
2	人間社会科学研究所アドミッション・ポリシー	1
3	人文科学専攻アドミッション・ポリシー	2
4	教 員 紹 介	3

II 学 生 募 集 要 項

第1	募 集 人 員	8
第2	出 願 資 格	8
第3	出 願 手 続	9
第4	選 抜 方 法 等	12
第5	学力検査等の日時及び試験場	12
第6	合 格 発 表	12
第7	入 学 手 続	13
第8	入学手続時に要する経費	13
第9	追 加 合 格	13

# I 人間社会科学研究科人文科学専攻案内

## 1 山口大学のアドミッション・ポリシー

山口大学は、「山口大学憲章」に掲げる基本理念に基づき、大学院のディプロマ・ポリシー（修了認定・学位の授与方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、「発見し、はぐくみ、かたちにする」を実践し、広い視野をもって地域、日本、世界に寄与できる人材の育成を目指します。そのために、次のような学生の入学を求めています。

### ● 求める学生像

- ・「発見し、はぐくみ、かたちにする」を実践して理論的・実践的研究を遂行するために必要な専門的知識・技能及び意欲をもつ人
- ・様々な視点から物事を論理的・批判的に考え問題解決につなげることができる人
- ・豊かな人間性と社会性を備え、自律心と倫理観をもって他者と協働することができる人

このような学生を適正に選抜するために、大学院の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

### ● 入学者選抜の基本方針

山口大学大学院の教育を受けるにふさわしい能力・適性を備えた入学者を受け入れるために、各研究科が求める能力・適性を多面的・総合的に評価し、選抜します。

## 2 人間社会科学研究科のアドミッション・ポリシー

山口大学大学院人間社会科学研究科では、「山口大学憲章」に掲げる基本理念に基づき、人と社会に関する学問分野や専門領域の研究をさらに深化させ、広い視野をもって地域、日本、世界に寄与できる人材の育成を目指します。そのために次のような学生の入学を求めています。

### ● 求める学生像

- ・人や社会に関する専門的な知識・技能に関心を持ち、研究を通して、より深くそれらを理解し学ぼうとする人
- ・優れたコミュニケーション力や多様な文化的背景を有する人々に関心を持ち、地域社会や国際社会の人々と協働しようとする人
- ・一人一人の人間が中心となる社会を目指し、社会における諸課題の解決のために自己研鑽の意欲を持つ人
- ・グローバルで持続可能な共生社会の実現に向けて世界で活躍する意欲のある人

### 3 人文科学専攻アドミッション・ポリシー

山口大学大学院人間社会科学研究科人文科学専攻では、「山口大学憲章」に掲げる基本理念に基づき、人間文化の根本原理を探求し、その多様な展開について、人文科学の各分野の具体的な課題を自ら設定して解明できる人材の育成を目指します。そのために次のような学生の入学を求めています。

#### ● 求める学生像

- ・専攻する学問分野について学士課程修了相当の知識を有し、幅広い視点から深く洞察し、これを論理的に展開したいと考える人
- ・他者とコミュニケーションを積極的に協働し、世界諸地域の間文化の固有性と普遍性の探究をさらに深めたいと考える人
- ・複雑な人間社会における諸課題の解決に寄与し、自らの研究テーマについて口頭や文章によつて的確に表現できる人
- ・高度な知識・分析力・判断力及び研究成果により、持続可能な共生社会を目指し、研究者やその他の専門的な業務の従事者として活躍したいと考える人

#### ● 入学者選抜の基本方針

山口大学大学院人間社会科学研究科人文科学専攻の教育を受けるにふさわしい能力・適性を備えた入学者を受け入れるために、人文科学専攻が求める能力・適性を多面的・総合的に評価し、選抜します。

一般入試では、筆記試験、口述試験により判定します。

#### ● 試験で重視するポイント

選抜内容	理論的・実践的研究を遂行するために必要な専門的知識・技能	物事を論理的・批判的に考え問題解決につなげることができる能力	豊かな人間性、社会性、倫理性と協働性の兼備
筆記試験	◎	○	
口述試験	◎	○	○

◎：強く重視して評価する ○：重視して評価する

## 4 教 員 紹 介

【人文科学専攻】（令和8年4月1日現在）

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
思 想 研 究 コ ー ス	西洋 哲学	教授 脇 條 靖 弘	※ 学生の受入なし（令和8年度末に定年退職）
		准教授 横 田 蔵 人	主として西洋の倫理学およびキリスト教思想に関する文献講読を行い、テキストの歴史的な脈を踏まえた正確な読解を目指すと同時に、読解されたテキストに見られる思想の現代の諸問題との連関、呼応可能性を検討する。
	東 洋 思 想 史	教授 柏 木 寧 子	主として古代・中世日本思想史上の基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究する。
		准教授 栗 原 剛	主として近世日本思想史上の基本的文献を読み解き、そこに跡づけられた人々の希求や思索がもつ意味を、普遍的な倫理につながり得るものとして主体的に考究する。
		講 師 吉 岡 佑 馬 (令和9年度から受入可能)	六朝から唐代にかけての、儒教・道教・仏教をめぐる諸思想を主たる研究対象としている。これまでは三教の義疏（注釈書）の発生・展開を思想史の視座から探求してきた。現在は義疏資料のみならず、さらに検討範囲を広げ、引き続き三教の融合・対立の様相を研究している。
	美 学 ・ 美 術 史	教授 藤 川 哲	美術史研究における古典的著作から、ニュー・アート・ヒストリーまでの代表的論文の講読によって、それらの研究者の視点および方法論を紹介し、考察する。
		教授 村 上 龍	主として文献の講読をつうじ、西洋美学上の思想史研究と現代美学上の様々な思潮の検討を行う。前者については今日的な視点に立つ批判的アプローチを、後者については同時代的な議論への合理的応答を、それぞれ目指す。
	宗 教 学	教授 Djumali Alam	※ 学生の受入なし（令和8年度末に定年退職）

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
歴 史	日	教 授 真 木 隆 行	日本中世の宗教権力に関する分析を通じて、中世の国家や社会をめぐる諸問題を総体として捉え直す。
	本	教 授 池 田 勇 太	日本近代、特に明治維新期を中心に、政治・思想・社会構造等を総合的に検討し、近現代史についての問いを深化させる。
	史	准教授 石 田 俊	日本近世国家の形成・展開過程について、幕府・大名・朝廷などの史料を用いて多面的に検討し、その構造や特質を明らかにする。
研 究 コ ー ス	東 洋 史	講 師 宮 古 文 尋  (令和9年度から受入可能)	中国近代史、特に日清戦争から辛亥革命に至る政治過程の再検討を研究課題としている。公的な行政文書や外交文書、私的な日記や書簡等の各種史料の複合的な分析を通じ、史料における記述の背景を再検討することで、清末政治史の「通説」の再構成を試みている。
	西 洋 史	教 授 竹 中 幸 史  准教授 南 雲 泰 輔	西洋近現代、特に18・19世紀史を扱う。専門はフランス革命およびナポレオンであるが、授業では政治・経済・文化の領域におけるヨーロッパとアメリカ大陸との関係、アメリカ史における「記憶」、そして大衆社会・大衆文化などをとりあげ、近代的な政治空間の生成と展開を考察する。  西洋古代・中世史、特に後期ローマ帝国史・初期ビザンツ帝国史について、政治・行政・社会・文化などさまざまな側面を視野に含めつつ考察し、古代・中世における地中海世界の多角的理解を目指す。
ス	考 古 学	准教授 村 田 裕 一	日本列島の弥生社会における生産および流通システムの成立と変容を、考古資料から具体的に捉えることで、日本農耕社会の形成過程を技術発達史・経済史的側面から解明する。
		講 師 石 谷 慎  (令和9年度から受入可能)	中国の春秋戦国時代や秦漢時代の青銅器・青銅鏡・銅銭などを資料として、生産・流通システムの変容やその背景にある思想の変遷について研究するとともに、広く古代東アジア世界における文化の変容と伝播の過程を探求する。

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
現 代 社 会 研 究 コ ー ス	現 代 社 会 学	教 授 速 水 聖 子	少子高齢化やグローバリゼーションといった大きな社会変動下において、現代日本の地域社会が抱える諸問題と今後の課題について地域社会学ならびに福祉社会学の観点から理論的実証的に研究する。
		講 師 吉 武 理 大 (令和9年度から受入可能)	家族が多様化している現代社会において、家族や子どもの格差・貧困の問題と、それに対する対応や支援のあり方について研究している。具体的には、量的データの計量分析や質的調査の事例などをもとに、家族社会学・福祉社会学の視点からの検討を行う。
	社 会 心 理 学	教 授 高 橋 征 仁	近年、ヒトの心にも進化の遺構が刻み込まれており、遺伝的な多様性が存在することが明らかになった。こうした進化論的なアプローチにもとづいて、ヒトの柔軟さや複雑性、戦略性を理解し、個人と社会の相互構成のあり方を問う。
		教 授 桑 畑 洋 一 郎	主に病や障害の当事者への調査を行いながら、そうした当事者が社会的にどのような不利益を被っているのか、特定の病・障害が不利益を導くのはなぜなのか、社会病理学や医療社会学的な立場から明らかにしようとしている。
	民 俗 学 ・ 文 化 人 類 学	教 授 谷 部 真 吾	民俗学・文化人類学的な視点から、日本の祭りの変化を研究している。具体的には、静岡県西部地方(掛川市、磐田市、森町)や富山県高岡市の祭りを事例として、それらの祭りの、主に近現代における変容過程を分析することで、日本文化・日本社会の特徴を明らかにしたいと考えている。
		教 授 山 口 睦	近代日本社会の贈与交換を基礎として、度重なる災害への支援活動を贈与論の立場から研究している。災害支援だけでなく社会的弱者への支援が活発化する現代社会において、人々はどのように関わり合うのか、モノと人との関係性に着目して研究していく。
		准教授 小 林 宏 至	中国福建省の客家社会を主たる対象として、社会人類学的な視点から親族、民間建築、文化表象の問題を研究している。具体的には父系出自集団における世代ランクと名前、土楼建築と親族組織の相関性、華僑社会へと土楼を介して広がる文化表象などである。

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介
日 本 ・ 中 国 言 語 文 学 研 究 コ ー ス	日 本 語 学	准教授 安 本 真 弓	古代日本語形容詞の文法的な特質について、動詞などの他品詞や現代語と比較することにより研究している。文献を使用し言語変化のあり様を明らかにする方法をさまざまな具体例をもとに検討したい。
	日 本 文 学	教 授 森 野 正 弘	平安文学作品の読解を行う。古典というテキストを読解することの今日的な意義を念頭に置きつつ、本文を読むという行為の中から誘発されてくる諸問題について検討を加える。
		教 授 野 坂 昭 雄	日本近代文学，特に近代詩の歴史的展開を主な研究内容とする。中でも，昭和初期の抒情詩やロマン主義の運動について，モダニズム，メディア，ナショナリズムといった観点から再検討することを試みる。
		教 授 尾 崎 千 佳	近世文学諸作品の読解および文学史的な位置付けを目指し，そのためのアプローチ法について講述する。記録・書簡等の周辺資料へも目配りしつつ，演習を通して，文献収集の方法・文献解読の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。
		准教授 藤 原 ま み	複数文化圏の文学・文化を対象に，比較文学・文化研究を実践。日本文学者の英語翻訳を介したフランス文学受容，人や事象の移動と文学，文化，芸術との関係を検討し，「南」「日本文学」等の枠組みを批判的に捉え直す。講義では，日本語・諸外国語の文学，マンガ，絵画，舞台芸術，科学論等を扱う予定だが，受講者に応じて調整する。
		准教授 中 元 さおり	日本近代文学の小説作品についての分析をおこなう。特に，作品が発表された同時代の文化的・歴史的背景などを視野に入れた幅広い問題意識のもとに文学テキストを考察する。
	中 国 語 学	准教授 更 科 慎 一	元明代に作られた漢語と他の言語との対訳文献を資料として，近世漢語音韻史や官話成立史などの問題を考察するとともに，当時の東アジア世界の言語接触のありさまに触れる。

研究 コース	専門 分野	教 員 名	研 究 内 容 紹 介	
欧 米 言 語 文 学 研 究 コ ー ス	英 語 学	教 授 上 田 由 紀 子	生成文法理論のミニマリスト・プログラムの枠組みに基づいた比較統語論研究を行う。対象言語は主に英語，日本語を扱うが，他の言語との比較も歓迎する。	
		講 師 藤 原 慶 樹	形式意味論の研究を中心に行い，統語論や語用論とのインターフェイスの研究も取り扱う。また，子供が統語論や意味論で観察されている抽象的な文法規則をどのように獲得するのかという母語獲得の問題についても取り扱う。	
		講 師 大 庭 明 莉 (令和9年度から受入可能)	子どもによる母語獲得を中心に研究を行う。母語獲得の中でも特に，子どもが統語的または意味的な現象で大人と同様に解釈できないと言われている現象について，その難しさがどこから来るのかという問題について取り扱う。また，第二言語獲得や継承語話者の言語知識に関しても研究を行う。	
	英 文 学	教 授 池 園 宏	19世紀から現代に至るまでの英国小説を読み解く。作品中に具現化された多様な人間像や社会像，小説家の中心思想等について考察し，その歴史的意義や現代的意義を吟味する。	
		教 授 外 山 健 二	アメリカ小説およびアメリカ文学史を中心に，文学理論や文化研究，英語文学等を視野に入れ，各時代の作家・作品研究や21世紀アメリカ文学の方向性を追究する。	
		講 師 Kateryna, Olha	グローバルな社会で重要なテーマを表現する文学作品を読み，その歴史的・文化的背景を明らかにする。又は比較文化論の代表的な論文の講読によって，アイデンティティ，ジェンダー，宗教，言語，認識等のテーマを中心にし，文化の中の「人間」について検討する。	
	・ ヨーロッパ言語学 比較言語学	教 授 武 本 雅 嗣	※ 学生の受入なし（令和8年度末に定年退職）	
		ヨ ー ロ ッ パ 文 学 ・ 比 較 文 学	教 授 De Boissieu, Michel	フランスの近現代文学を様々な角度から検討する。特に，文学と歴史との関係を明らかにする。
			講 師 稲 垣 健 太 郎 (令和9年度から受入可能)	主にラテン語の手稿や東洋語写本，関連する各国語の文献を読解することで，初期近代ヨーロッパにおける東洋学者たちの仕事や彼らの知的実践を再構築するとともに，彼らの仕事が後世のヨーロッパの文学や文化にどのような影響をもたらしたのかを論究する。
	言 語 学	准教授 乾 秀 行	※ 学生の受入なし（令和8年度末に定年退職）	

## Ⅱ 学生募集要項

### 第1 募集人員

専攻	募集人員
人文科学専攻	7名
計	7名

※ 募集人員は、第1次募集と第2次募集との合計数

### 第2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- 1 大学を卒業した者及び令和9年3月に卒業見込みの者
- 2 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第7項の規定により、学士の学位を授与された者、及び令和9年3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- 3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、及び令和9年3月までに修了見込みの者
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者
- 5 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされたものに限る。)を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者
- 6 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの、又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該課程を修了すること、及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月までに授与される見込みの者
- 7 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和9年3月までに修了見込みの者
- 8 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)
- 9 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 10 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和9年3月31日までに22歳に達している者
- 11 上記1～10の規定にかかわらず、次の(1)～(4)のいずれかに該当する者であって、本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認める者
  - (1) 大学に3年以上在学した者
  - (2) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者
  - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
  - (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

- 〈注〉 1 外国人留学生等の日本語非母語話者については、以上のほか、日本語能力に関する要件として、独立行政法人国際交流基金及び公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する「日本語能力試験」を、出願日より過去5年以内に受験し、**N1の認定**を受けている者とします。
- 2 出願資格の9～11((4)を除く。)に該当する者は、事前に出願資格の審査を行う必要があります。第1次募集については令和8年7月3日(金)までに、第2次募集については令和8年12月9日(水)までに、人文学部学務係に問い合わせてください。

### 第3 出願手続

#### 1 出願期間

第1次募集の出願：令和8年10月1日(木)～10月7日(水) (必着)

第2次募集の出願：令和9年1月5日(火)～1月8日(金) (必着)

※ 第1次募集によって募集人員に達した場合、第2次募集は実施しません。

第2次募集の実施の有無等については、12月初旬に、ホームページで公表する予定です。

- (1) 人文学部学務係の窓口での受付時間は、平日の9時から17時までとします。
- (2) 郵送の場合、第1次募集については令和8年10月7日(水)までに、第2次募集については令和9年1月8日(金)までに必ず届くよう、郵送期間を十分考慮のうえ発送してください。

#### 2 出願書類等

下記「**所定のファイル**」については、本学のホームページからダウンロードし、A4サイズ用の紙に印刷して提出してください (<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>)。

入学志願票 受験写真	「 <b>所定のファイル</b> 」を印刷し、記入・押印のうえ、提出してください。 入学志願票の作成に際しては、希望専門分野または指導教員を「4 教員紹介」(2ページ)等によってご確認ください。本学人文学部の在籍者以外のかたは、 <b>人文学部学務係</b> (下記4の提出先)が、研究分野の選択の相談窓口となります。 写真票の所定欄には、写真(4cm×3cm、出願前3か月以内に撮影した上半身・無帽・正面向き)を貼ってください。
卒業(見込)証明書 又は 学位授与証明書 若しくは 修了(見込)証明書	出身大学(学部)長が作成したものを提出してください。 ただし、本学人文学部出身者は不要です。 ----- 独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行したものを提出してください。 なお、申請中の場合は、学位授与申請(予定)証明書(様式任意)を提出してください。 ----- 出身学校長が作成したものを提出してください。
成績証明書 又は 単位修得証明書	出身大学(学部)長、又は学校長が作成し、厳封したものを提出してください。 ただし、本学人文学部出身者は不要です。
研究計画書	A4サイズ用の紙に「これまでの研究経過と今後の研究計画」を作成し(1200字程度)、印刷して提出してください。
卒業論文 又は 研究レポート	A4サイズ用の紙に印刷して提出してください(各ページがA4サイズであればA3用紙印刷も可)。卒業論文をまだ執筆していない場合は、研究レポート(4000字～8000字程度、図表・資料等は字数に含めない。)を提出してください。

<p>検 定 料 30,000円</p>	<p>最寄りの郵便局で、下記の振込口座へ払い込んでください。払込取扱票には、氏名等の記入のほか、通信欄には「人間社会科学研究科人文科学専攻 入学検定料」と記入してください。払い込み後には「振替払込請求書兼受領証」を受け取り、上記「入学志願票」の裏面の所定欄に貼り付けてください。</p> <p>なお、出願書類を受理した後は、下記「<b>5 検定料の返還について</b>」に該当する場合を除き、いかなる理由があっても、払込済の検定料は返還できません。</p> <p>【本学指定の振込口座】 ゆうちょ銀行 当座預金 01320-1-40704 支店番号 139 支店名 一三九店（イチサンキユウ店） （加入者名）国立大学法人 山口大学</p>
<p>勤 務 先 からの 受 験 承 諾 書</p>	<p>官公庁・会社等に在職している者で、現職のまま入学を希望する場合は、勤務先の長、又は代表者からの承諾が必要です。「<b>所定のファイル</b>」を印刷し、記入・押印のうえ、提出してください。</p>
<p>教 育 方 法 の 特 例 措 置 希 望 調 書</p>	<p>2年次の受講に関する特例措置（下記8～10参照）の希望者は、「<b>所定のファイル</b>」を用いて作成し、印刷物を提出してください。</p>
<p>日 本 語 能 力 試 験 認 定 結 果 及 び 成 績 に 関 する 証 明 書</p>	<p>外国人留学生等の日本語非母語話者のかたは、上記「出願資格」注1の要件の証明が必要です。ただし、出願日より過去5年以内に実施された試験に限ります。</p>

<注> 外国語で作成された書類には、日本語訳を必ず添付してください。

### 3 出 願 方 法

入学志願者は、出願書類等を一括して、**人文学部学務係**に提出してください。郵送する場合は、**特定記録郵便速達**としてください。

なお、出願の際は、封筒の表側に「人間社会科学研究科人文科学専攻出願書類等在中」と朱書きし、封筒の裏側には、差出人の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記してください。

### 4 提 出 先

〒753-8540 山口市吉田1677-1 山口大学人文学部学務係  
TEL:083-933-5209, FAX:083-933-5214  
E-mail:hc134@yamaguchi-u.ac.jp

### 5 検定料の返還について

ア 次に該当した場合は、納付済の検定料を返還します。

- ① 検定料を納付済であるが山口大学に出願しなかった場合
- ② 検定料を誤って二重に納付した場合、又は誤って所定の金額より多く納付した場合  
(この場合の返還額は、納入済の金額から所定の検定料を控除した金額となります。)
- ③ 出願書類等を提出したが受理されなかった場合

イ 返還請求の方法

上記①又は②に該当した場合は、**人文学部学務係**（上記4の提出先）に連絡してください。連絡があった後に「検定料払戻請求書」用紙を送付しますので、必要事項を記入のうえ郵送してください。

また、上記③の場合は、出願書類等返却の際に「検定料払戻請求書」用紙を同封しますので、必要事項を記入のうえ、**人文学部学務係**へ郵送してください。

## 6 個人情報の利用について

本選抜において出願の際に提出いただいた出願書類等で得た個人情報は、本学の入学者選抜に係る業務のほか下記の業務に利用します。なお、個人情報の保護に関する法律第18条第3項各号及び第27条第1項各号に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

- (1) 合格者の受験番号、住所及び氏名等の個人情報を、入学手続に関わる業務に利用します。
- (2) 入学手続者の受験番号、氏名、性別、生年月日、出身大学等の個人情報を学籍管理等の修学指導に関わる業務及び健康診断等の保健管理に関わる業務並びに厚生補導に関わる業務に利用します。
- (3) 入学者選抜で取得した入学手続者に関わる成績等の個人情報を、入学料免除、入学料徴収猶予、第1年次における授業料免除及び奨学生採用等の経済支援に関わる業務に利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、統計処理業務及び本研究科における入学者選抜方法の改善に関わる調査・研究に利用します。

## 7 出願にあたっての注意事項

- (1) 出願書類に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (2) 出願書類等に記載事項の記入もれや誤記がある場合は、受理しないことがあります。
- (3) いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。また、出願事項の変更も認めません。
- (4) 身体に障がい等のある入学志願者で、受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、電話、FAX又はE-mailなどにより、事前に**人文学部学務係**へ連絡してください。第1次募集では令和8年8月28日(金)までに、第2次募集では令和8年11月27日(金)までに、「相談書(様式は特に定めません。)」を提出していただきます。必要な場合には、入学志願者等との面談を行うことがあります。
- (5) 出願に関して問い合わせをする場合は、**人文学部学務係**に照会してください。

## 8 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例について

大学院設置基準第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は期間において授業または研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる」旨、規定されています。

これを踏まえ、人間社会科学研究科においては、大学院での履修を希望する社会人研究者、教育者等に対して、大学院設置基準第14条に定める教育方法による教育を実施することとします。

## 9 教育方法の特例の概要

- (1) 修業年限2年間のうち、2年次の1年間に適用します。
- (2) 修了要件単位数30単位のうち、特例により2～6単位を修得できるものとします。
- (3) 特例に係る授業の時間帯は、月曜日から金曜日までの11・12時限(18時00分～19時30分)とし、必要に応じて、授業を開講します。また、個々の事情によっては、夏季休業中等に教育を行うことがあります。
- (4) 研究及び履修計画は、希望指導教員と協議のうえ決定してください。

なお、勤務の都合上、2年間で修了することが困難な場合は、あらかじめ2年間を超える研究及び履修計画を設定してください。

## 10 教育方法の特例を希望する者の手続

出願に際して、本募集要項の出願書類に加えて「令和9年度山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)教育方法の特例措置希望調書」を提出してください。

## 第4 選抜方法等

入学者の選抜は、出願書類及び学力検査等の結果により審査します。

### 学力検査等

#### (1) 筆記試験

##### ア 専門科目

志望する研究コースに関する科目を課します。

なお、専門の研究に外国語を必要とする場合、その言語を問題の一部に含めて課することがあります。

##### イ 小論文

特定の専門分野に偏った問題ではなく、より一般的・教養的な内容の問題を課します。

#### (2) 口述試験

志望する研究コースに関し、基礎的学力、志望理由等を問います。

## 第5 学力検査等の日時及び試験場

日	時	学力検査等		試験場
第1次募集 令和8年11月11日(水)	9時30分～11時30分	筆記試験	専門科目	山口大学人文学部
	13時00分～15時00分		小論文	
	15時30分～	口述試験		
第2次募集 令和9年2月10日(水)	9時30分～11時30分	筆記試験	専門科目	山口大学人文学部
	13時00分～15時00分		小論文	
	15時30分～	口述試験		

(備考) 学力検査当日は、9時00分までに人文学部学務係で受付を行ってください。

## 第6 合格発表

合格者の発表は、次の日時に山口大学人文学部において合格者の受験番号を掲示します。

第1次募集の合格発表：令和8年11月25日(水) 10時 (予定)

第2次募集の合格発表：令和9年2月26日(金) 10時 (予定)

- 〈注〉
- 1 合格者には合格通知書及び入学手続書類(「入学の手引」等)を郵送します。
  - 2 1の書類等は、合格発表日に「簡易書留速達」扱いで発送します。到着まで数日かかる場合がありますが、ご了承ください。
  - 3 合・否の問い合わせには応じません。
  - 4 山口大学人文学部ホームページに合格者の受験番号を掲載します。(10時00分頃)  
なお、ホームページに掲載する合格者情報は、情報提供サービスの一環として行うもので、合格者には合格通知書をもって正式に通知します。

山口大学大学院人間社会科学研究所ホームページURL

<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/hes/exam/index.html>

## 第7 入学手続

合格者は、次の期間内に所定の入学手続を行ってください。

第1次募集の入学手続：令和8年12月2日(水)～12月3日(木) (必着)

第2次募集の入学手続：令和9年3月4日(木)～3月5日(金) (必着)

- (1) 人文学部学務係の窓口での受付時間は、平日の9時から17時までとします。
- (2) 郵送の場合、第1次募集の手続は令和8年12月3日(木)17時**必着**、第2次募集の手続は令和9年3月5日(金)17時**必着**とします。  
なお、所定の期日までに入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

## 第8 入学手続時に要する経費

### 1 入学料及び授業料

入学料(入学手続時に納付)	282,000円	(予定額)
授業料(入学後に納付)	前期分 321,480円	(予定額)
	後期分 321,480円	(予定額)

- 〈注〉
- 1 本募集要項公表後、令和9年度入学者に係る入学料、授業料の改定を本学として決定した場合は、改定後の額となります。また、既に納入されていた場合は、改定額との差額を納入していただくこととなります。
  - 2 既納の入学料は、いかなる理由があっても返還できません。
  - 3 在学中の授業料の納付は、入学手続時に郵便局・ゆうちょ銀行へ提出する自動払込利用申込書(入学手続書類とともに郵送します。)に基づき、前期分は5月末日、後期分は11月末日(末日が土・日曜の場合は、その前の平日)にゆうちょ銀行の学生(又は学資負担者)名義の口座から自動的に引き落とし大学に納付することとなります。引落日の前日までに必ず入金しておいてください。
  - 4 入学料及び授業料について納付を免除する制度があります。入学料の免除及び徴収猶予並びに授業料の免除の詳細については、学生支援部学生支援課経済支援係(TEL:083-933-5611)に必ず問い合わせてください。
  - 5 授業料は、在学中に授業料改定を行った場合、新授業料を適用します。

### 2 諸経費(令和8年度現在)

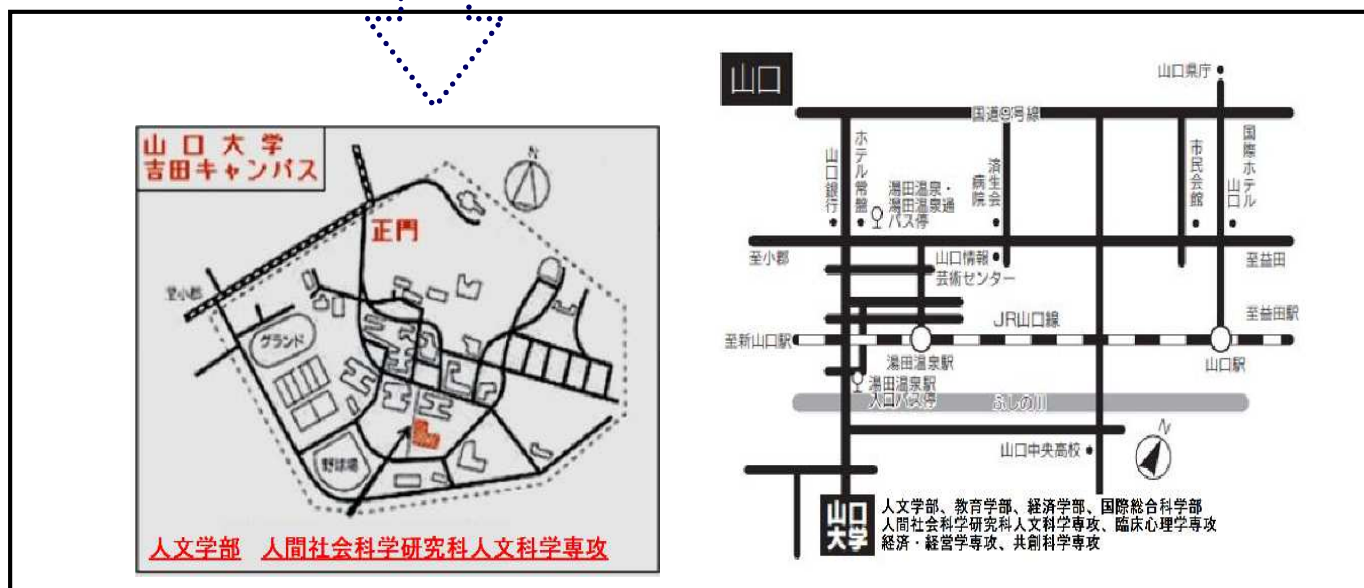
学生健康保険組合費	5,000円(2年間)
学生教育研究災害傷害保険料	1,750円(2年間)
人文学部後援会会費	10,500円(2年間+入会金1,000円)
鴻文会会費(同窓会)	10,000円(終身会費)(既に同窓会会員の者は不要)

## 第9 追加合格

入学手続完了者が入学定員に満たない場合には、追加合格を行うことがあります。

追加合格を行う場合の入学意思の確認は、入学志願票の「現住所」欄に記入された電話番号に連絡する形で行います。第1次の追加合格は令和8年12月4日(金)に、第2次の追加合格は令和9年3月8日(月)に電話確認します。

## 《山口大学大学院人間社会科学研究科交通案内》



山口大学吉田キャンパス / 山口市吉田1677-1

- J R新山口駅からJ R山口線「湯田温泉駅」下車  
湯田温泉駅入口バス停からJ Rバス山口大学行「山口大学」下車
- J R新山口駅北口(在来線口)から防長バス「県庁前(平川経由)」行「山口大学前」下車
- J R新山口駅から車で約30分
- 湯田温泉スマートインターチェンジから車で10分

山口大学大学院人間社会科学研究科

人文科学専攻

〔お問い合わせ先〕

山口大学人文学部学務係

〒753-8540 山口市吉田1677-1

TEL:083-933-5209, FAX:083-933-5214

E-mail:hc134@yamaguchi-u.ac.jp